

# 産総研一般公開 2023 におけるラボツアー、 産業技術「ジオ」研究所の開催報告

森田 澄人<sup>1)</sup>・井川 怜欧<sup>2)</sup>・松岡 萌<sup>3)</sup>・羽田 裕貴<sup>3)</sup>・針金 由美子<sup>3)</sup>・  
嶋田 侑真<sup>4)</sup>・金子 翔平<sup>5)6)</sup>・三木 綾佑子<sup>7)</sup>・上綱 大輝<sup>8)</sup>

2023年11月11日、産総研一般公開2023が開催されました。これは2020年にコロナ禍に入って以来では、初めて入場者が千人を超えた本格開催の一般公開でした。各研究領域の研究室訪問として企画されたラボツアーの一環として、私たちは「産業技術『ジオ』研究所」と銘打ったツアーを催しました。場所は地質標本館で、参加者はまず館内の映像室で地質調査総合センター(GSJ)の研究者3名と懇談会を行いました。懇談会の後は、館内を見学していただきました。特に第一展示室の日本列島大型3Dプロジェクションマッピングについては解説付きの見学でした。ツアーは午前と午後に1回ずつ行い、参加者は15名ずつでした。登壇した研究者や展示解説者、案内担当は第1表の通りです。

午前と午後の各回につき、参加者案内担当が、中央事業所本部・情報棟の集合場所からジオツアー参加者を地質標本館映像室まで案内しました。

地質標本館では各回ともに森田が司会を務め、冒頭の趣旨説明の後、各登壇者からは5分間ずつ、準備したプレゼン資料を使いながら、自身の経歴や研究などの紹介を行いました。研究者は話が長くなりがちですが、メインとなる懇談会の時間を十分に残すため、そこは時間厳守で進行しました。

懇談会になると、参加者から切れ目なくたくさんの質問の手が上がりました。研究者を志した切っ掛けや研究上での苦労話などを尋ねる一般的な質問はもちろんですが、研究内容に関するかなり具体的な質問もありました(写真

第1表

## 午前の部 登壇者

井川 怜欧	地圏資源環境研究部門 地下水研究グループ	写真1
松岡 萌	地質情報研究部門 リモートセンシング研究グループ	写真2
羽田 裕貴	地質情報研究部門 平野地質研究グループ	写真3

## 午後の部 登壇者

針金 由美子	地質情報研究部門 資源テクトニクス研究グループ	写真4
嶋田 侑真	活断層・火山研究部門 海溝型地震履歴研究グループ	写真5
金子 翔平	当時、地質調査総合センター連携推進室 国内連携グループ、兼エネルギー・環境領域 再生可能エネルギー研究センター 地中熱チーム	写真6

## 館内展示解説 (日本列島大型3Dプロジェクションマッピング)

森田 澄人	地質情報基盤センター 地質標本館
-------	------------------

## 参加者案内

三木 綾佑子	企画本部 企画室
上綱 大輝	研究戦略企画部 連携推進企画室

1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報基盤センター  
2) 産総研 地質調査総合センター 地圏資源環境研究部門  
3) 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門  
4) 産総研 地質調査総合センター 活断層・火山研究部門  
5) 産総研 地質調査総合センター 連携推進室

6) 産総研 企画本部 国際部  
7) 産総研 企画本部 企画室  
8) 産総研 研究戦略企画部 連携推進企画室

キーワード：産総研、一般公開、地質標本館、ラボツアー、ジオ、懇談会、プロジェクションマッピング



写真1 井川は、地下水研究を選択するに至った学生時代からの経験や思いを過去の写真と共に示した。



写真4 針金は、掘削調査や潜航調査など様々な調査航海と研究方法をもって、自らの経験を伝えた。



写真2 松岡は、はやぶさ2が持ち帰った小惑星リュウグウの試料の貴重さや、その研究の面白さを伝えた。

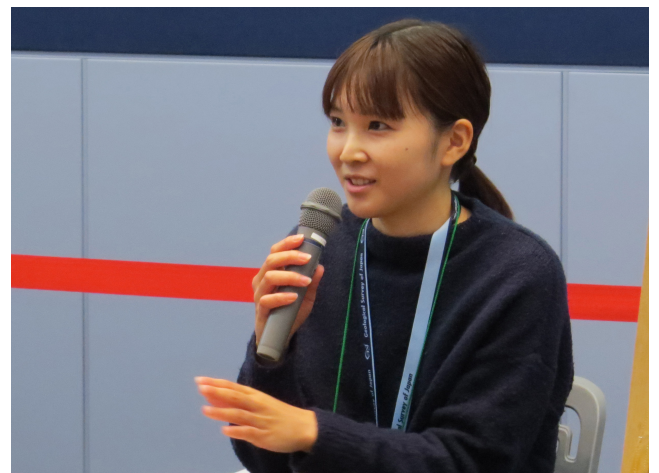


写真5 嶋田は、津波堆積物の剥ぎ取り標本を示しながら、地層から津波の痕跡を見つける手法などを紹介した。



写真3 羽田は、チバニアン(GSSP(地質年代の境界を定める「国際境界模式層断面とポイント」)決定までの経験をはじめとして、古地磁気研究の面白さを伝えた。



写真6 金子は、夏は涼しく、冬は暖かい環境をつくれる地中熱の技術を模型を使いながら示した。



写真7 懇談会では、参加者から終始積極的な質問が続いた。

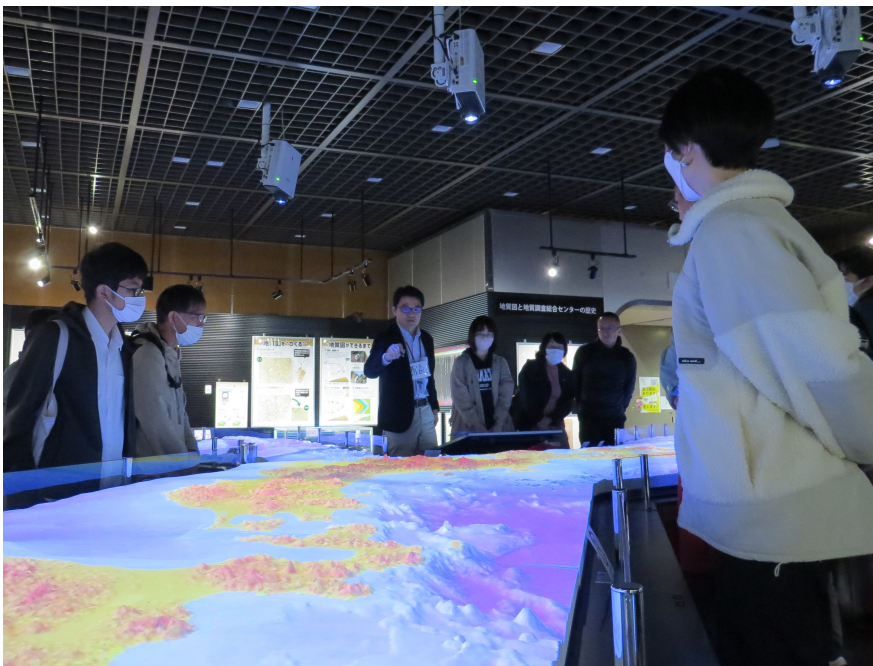


写真8 懇談会の後は、日本列島大型3Dプロジェクションマッピングの解説を行った。

7). はやぶさ2が持ち帰った小惑星リュウグウの試料について、分配されたものに「あたり・はずれ」はある？（回答 松岡：全部あたり。特異性がある方がより一層興味深い）。津波堆積物の調査を行う場所はどのように決める？（回答 嶋田：沿岸の湿地や湖が候補になる。平時に泥の地層に対して、砂質の津波堆積物は見分けやすい）、などの質問は印象的でした。また、この度の一般公開は学生をメインに受け入れたこともあり、学生時代と研究内容が変わることに不安はなかった？（回答 井川：自分のコアとなる技術があれば問題無し）、採用前に何回学会発表をした？または、産総研における修士型採用のメリットは？など、進路相談

にも近い学生らしい質問もありました。

懇談会の後は、第一展示室の日本列島大型3Dプロジェクションマッピングを使用しながら、日本の地質概要を説明するとともに人と地形と地質の密接な関わりについて解説しました(写真8)。その後は自由に館内を見学できる時間を設け、参加者は自由解散としました。

このような地質標本館における懇談会は初めての試みでした。開催側にとってチャレンジングな場でしたが、質疑は大いに盛り上がり非常に楽しく充実した時間となりました。終わってみるとあっという間のように感じられ、懇談会が終了してからも登壇者に質問する学生たちの姿がまた

印象的でした。

この度の一般公開ラボツアーの開催にあたり，ブランディング・広報部には企画策定の段階から当日の進行等においてご指導頂きました。また，当日は地質標本館のロビーホールにおいて，液状化を模擬するエキジョッカー（宮地・兼子，2002）やエッキー（納口，1999），三角州や大地の成り立ちを模擬する水路実験装置を設置し，地質標本館運営グループのスタッフによるデモを行いました。このような一般公開に相応しい特別感のある体験を通じて，来館者に学びの場を広げていただきました。（写真9，10）。サポート頂いた方々に謝意を表します。

## 文 献

宮地良典・兼子尚知（2002）エキジョッカーによる液状化実験装置。地質ニュース，no. 570，26-27。

納口泰明（1999）自然災害の科学教室—地盤液状化現象の科学手品 [エッキー] (1) —。防災科研 NEWS，no. 129，10-11。



写真9 ロビーホールでは，エキジョッカーやエッキーで地震時の液状化現象を紹介した。



写真10 三角州や台地の形成を模擬する水路堆積実験は，多くの来館者の注目を集めた。

MORITA Sumito, IKAWA Reo, MATSUOKA Moe, HANEDA Yuki, HARIGANE Yumiko, SHIMADA Yumi, KANEKO Shohei, MIKI Ayuko and KAMITSUNA Daiki (2024) Report of the lab tour, "Geo-meeting" at the AIST Open House 2023.

（受付：2024年4月22日）